

<u>CLASSE :</u>	文法と文学 GLS-11L
<u>Jour :</u>	Lundi
<u>Horaires :</u>	13:30-15:20
<u>Niveau :</u>	B2
<u>M./Mme :</u>	M. Takahiro KUNIEDA
<u>Objectifs :</u>	文法構造、文法項目を精緻に分析しながら、フランス語で小説を読む。
<u>Descriptif :</u>	20 世紀を代表する知識人・思想家の一人である Simone de Beauvoir シモーヌ・ド・ボーヴォワール(1908-1986)の自伝 <i>Mémoires d'une jeune fille rangée</i>『娘時代』(1958)を読みます。ボーヴォワールといえば、フェミニズムの古典的作品『第二の性』が有名ですが、この自伝は、女性の生き方が束縛されていた時代に、自らがどのような生い立ちを辿り、学問をし、社会を批判する視座を獲得していくか、そのフェミニズムまでの個人の道程をたどります。 文学テキストを読む楽しみは、確かに作者が描く世界に自らも入り込むことにあります。しかし、そこで用いられている言語そのものの正確な理解なしには作品世界の理解もありえません。この授業では、文法構造、文法項目をおろそかにせず、ひとつひとつ精緻に分析することで、作品世界をよりいっそう深く理解していくことを目的とします。 授業の構成：毎回 2 ページほど読みます。授業は講師が解説をし、受講者からの質問を受ける形式です。毎回 5～6 人の方に、それぞれ 10 行ほどの訳の宿題を出します。担当になった人は、次回の授業の前日までに自分の訳を電子媒体で講師に送ります。次回の授業の冒頭で添削済みの訳文を配布し、前回の復習と日本語訳の確認をしてから、新しい箇所に入ります。
<u>Matériel :</u>	テキストの PDF を配布
<u>Remarques :</u>	抜粋を読みますので、いつからでも問題なく授業にはついていけます。